

戦没学徒を追悼

若人の広場で献花式

広報南あわじ

2010.9.1 No.68

編集発行：南あわじ市総務部情報課

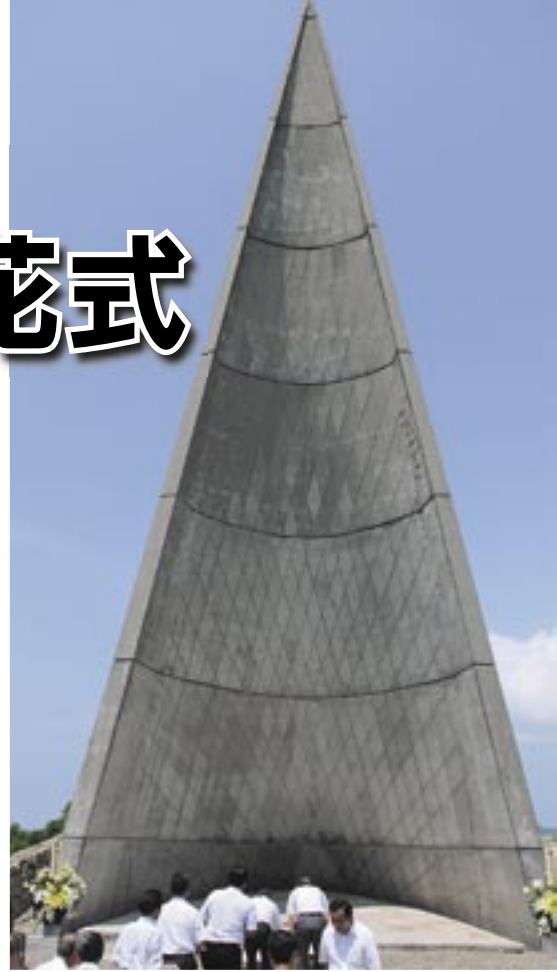
〒656-0472 兵庫県南あわじ市善光寺18番地27

TEL(0799)43-5003

FAX(0799)43-5103

URL: <http://www.city.minamiawaji.hyogo.jp/>

E-mail: kouhou@city.minamiawaji.hyogo.jp



▲危険な場所があることから、門を設置

戦没学徒記念若人の広場で8月15日、市主催で追悼献花式を行いました。同施設は1967年に建設され、今年6月に「(助)動員学徒援護会」「(助)戦没学徒記念若人の広場」から市が施設を引き受けました。

献花式は今回が5回目。中田勝久市長をはじめ市議会議員や衆議院議員、県議会議員、淡路県民局、同両財団、地元NPOなど関係者45人が参列しました。式典では、メモリアルタワーの前で正午に黙とうの後、一人ひとりに白菊を献花し、戦没学徒を追悼しました。中田市長は「尊い命をささげた戦没学徒のことを風化させることのない施設にしていきたい」と話し、戦争で命を落とした学徒の冥福を祈り恒久平和を祈念しました。

なお、若人の広場の整備は今後、各方面の人たちの意見を伺いながら国・県の支援をお願いしつつ、公園化を視野に入れた適切な利活用の検討を行う予定です。

現在この施設は老朽化が激しく危険な状態であることから、当面は立ち入りを禁止しています。戦没学徒への追悼や平和記念などのため、特別に入場を希望する人は、事前に許可等の手続きが必要ですので、市長公室までお問い合わせください。☎市長公室 ☎43-5002

榎

列掃守 (えなみかもり)

「カモモリ」が?

『続三原郡史』

地名の由来

その15

郡史の拾い読み 知っておきたい...



掃守という地名は、古代の伴部である掃守部に由来するといわれる。掃守部は大和朝廷の内廷に仕えるものとして編成された伴の一つで、『新撰姓氏録』に、雄略天皇の御代に、掃除の事を監したので掃守連の姓を賜ったとある。「古語拾遺」に、「掃守連の遠祖 天忍人命 供へ奉り陪侍りて、箒を作り蟹を掃ふ。仍りて鋪設を掌り、遂に以て職と為す。なづけて蟹守と曰ふ。今俗に、之を掃守と謂ふは、彼詞の転れるなり」とある。しかし、「カモモリ」が「カモリ」に転訛したと考える方が自然である。この所伝は、古事記、日本書紀にはないが、掃守は、大和朝廷の宮殿の掃除と儀式の座席などの設営に奉仕した部民である。岡山寺の東に掃守明神という神社があり、掃守連の遠祖、天忍人命を祀っている。村名の由来は、大和朝廷の掃守連が居住していたことによるという。掃守明神から約1kmの地点

に、淡路第一の古社という説(兵庫神社祇五十二号 瀧川政次郎)もある大和(大和魂神社)があり、応神、仁徳、履中、反正、允恭天皇の淡路行幸の記述から考えて、掃守部の居住説が村名の由来となつたと思われる。「古語拾遺」は、掃守は蟹守の転訛としているが、「カモ」とは「蟹」である。「広辞苑」によると「カモシカの毛で撚って作った敷物」である。この敷物を司るのが掃守寮であつた。天皇の即位式と大嘗祭に天子の座席を設営する仕事を、掃守連の族長が掌つた。四世紀から五世紀にかけて大和朝廷が淡路をその勢力下においていたので、天皇のお供をして掃守部の人達も来て安住したという伝承からの地名であろう。(根岸謙之助「蟹守考」)

編集事務局

市長公室 ☎43・5002

第7編 各説 地名の改変
三原郡の大字と冠称の由来から抜粋
(訂正) 広報8月号伊勢恩師→伊勢御師